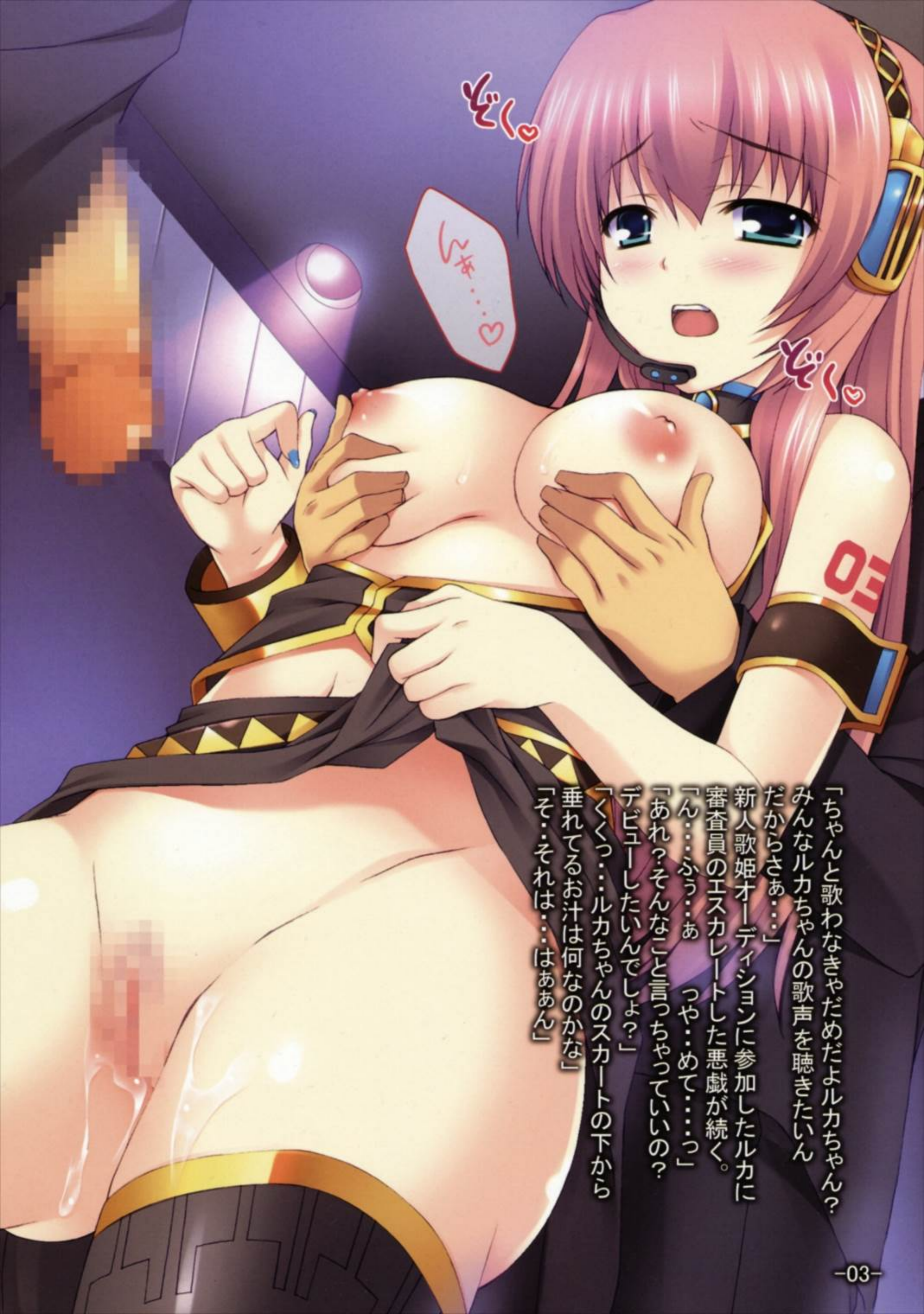


# × 三日月 ×

presented by  
SWEETRANGE

**R18**  
Adult  
Only





「ちゃんと歌わなきゃだめだよルカちゃん？  
みんなルカちゃんの歌声を聴きたいん  
だからさあ...」  
新人歌姫オーディションに参加したルカに  
審査員のエスカレートした悪戯が続く。  
「ん...ふう...あ　　っや...めて...っ」  
「あれ？そんなこと言っちゃっていいの？  
デビューしたいんでしょう？」  
「くくっ...ルカちゃんのスカートの下から  
垂れてるお汁は何なのかな」  
「そ...それは...はああん」





「やあ…だ…め…つい…いく…っ  
イっちゃいますぅううっ」  
体をのけぞらし、ビクンビクンと  
痙攣させるルカ。絶頂による膣内の  
収縮に肉棒も反応する。  
「くぅ…：すげえ絞まってるぜ…：さて  
そろそろ膣内に注いでやるからな？」

ズチュツ！ズチュツ！ズチュツ！  
ぐったりする間も与えず、男のピストンが  
いっそう激しさを増した。  
「ふあっ…あっ…も…もうらめえ…っ！」  
「…だすぞっ！」  
「ふあっ…あ…あああああっ！」  
ビュルツ！ビュルツ！  
熱い精液に押し流されるように  
より敏感になったルカの体は再び絶頂を  
迎えた…

「んああ…はあっ…もっど…  
もっど深く突いてくださああいっ」  
何度も絶頂を迎え快感に  
支配されたルカの体は自ら肉棒を  
欲しがるようになっていた。  
「はあっ…すっ…っ 気持ちいいっ」  
当たってます…っ」  
「へへ…ルカちゃんまたイきたいの？  
おま〇こがキュウキュウ痙攣してるよ」  
「は…いっ…また…イきたいの…っ  
イかせてください…っ」

たぶ、

たぶ、

ずびゅん

ずびゅん

ずびゅん

きゅん

きゅん

「やらしい」だなルカちゃん…  
じゃあもっど激しく突いてあげるよっ！」  
「ふああっ！ああっ…いっ  
いいです…っ」  
幾度目かのオーガズムが再び  
ルカを包んでいく。  
「ひゃあっあ…来る…っ  
熱いの奥にくださひ…っ！」  
肉棒がルカの奥で痙攣を始めた後  
熱い精液が膈内を満たしていく。  
「いく…いくっ！はああああんっ…」



「はあ……はあ……はあ……んん……っ」  
審査員全員の欲望を受け止めた  
ルカはぐったりしながらもぶるっと  
全身を痙攣させ、快楽の余韻に浸っている。  
「くくっ……おめでとぅルカちゃん  
オーディションは合格だよ。  
これからも頑張ってもらうからね……その体で」  
「あ……は……い……」  
何が「合格」なのかは分かっていた。だが  
快楽の本能に支配されたルカには  
拒む理由はなかった……

はっあ……んっ

「くう……ん……っ  
もうだめ……ほしいのお」  
自分の指だけではもう我慢できずに  
思わず口に出してしまう。  
「はは……っ やらしい娘だなお前は……  
そら、もういきそうな顔をしてるぞ？」  
凶星を突かれてギクリとしながらも、  
こみ上げるオーガズムへの快感は  
止められなかった。  
「んあッ……ひ……いく……やあ……  
イツ……ちやいます……うんんっ！」

「よおしルカ……今日はレコード会社の皆様に  
気に入られるようによく体をほぐしておくんだぞ」  
「……はい……社長……」

……ちゅくっ……  
「ん……ふ……ううっ」  
ほんの少しクリトリスをいじっただけなのに  
ジュワツと粘液が膣内に溢れる。

ぐちゅっ ぐちゅっ  
「はあ……あん……ああ」  
全身を包む甘い快感を貪るように指を動かす  
度、くぱくぱと膣が開き愛液が飛び散る。

おちゅっ

おちゅっ



「ふふ……どうですっ？うちの

歌姫たちは……」

「ほほう……なかなか仕込まれてる

ようですな……事務所の教育のたまものですな」

取引先のレコード会社の幹部、音楽家など大勢が

取り囲むようにルカとミクのレスショーを吟味している。

「はあん……いいのお……ミクのココ、ふにふにして気持ち

いいよお……」

視線に犯されながら、快楽を求めて秘裂をこすりつけるルカ。

どいっ  
どいっ

03

きゅっ

きゅっ

じゅっ

じゅっ

「ん……ふあ……あ……」

ピクピクと体を痙攣させ、今まで

恥辱に耐えていたミクが声を漏らす。

「ふふ……っ……ミクもこっが気持ちいいの？」

お互いのクリトリスが擦り合い、二人を快感の絶頂へ

導いていく。

「はああ……だめ……ルカ私……イっちゃうよおお」

「わ……私ももう……っミク一緒に……一緒にいい」

ビク！ビクビクビク！

二人の粘液でぐしょぐしょになった秘裂がぱくぱくと

いやらしく痙攣し、待ち焦がれた

絶頂の波がやってくる。

「イ……イク……ふあああああつ」

ルカは好みの曲じゃないと絶対に歌ってはくれない  
作曲する度に彼女の一言でボツにされる毎日：  
「なにこの曲……。まったくこんなダサいのしか  
作れないなんてマスターは才能がないのかしら？」

マスター  
頭にきた。主人は俺だぞ！  
こうなったら嫌でも歌わせてやるっ！

あんなに可愛くない！

おびゅ

わん

べん

「えり！」  
「ちよっ……マスター!?  
やめなさっ……んんあッ！」  
俺はルカの豊満なオツパイを  
力いっぱい驚掴む  
もっとだ……もっと声を出させてやる！

人…女…ぶ…

ちゅ  
ちゅ  
ちゅ

ぐにゅ  
にゅ

ぬちゅ  
しゅ  
ちゅ

下の口も開かせてやろう

「あつ！ 何して…んはあツ

そっそこは…やっ！ 触らないっ…でえええ！」

ちよつと肉びらを指先で撫で回しただけで

いやらしい汁がオマ○コからぼたぼた溢れ出てくる

「あああんっ…ひあ！…くううう〜」

淫行に耐えるルカの喘ぎ声が

耳元で心地よく響く

グズグズ

ジュジュ

うるっ

まだまだ音量が足りないな

俺は起立した自分の肉棒をルカの口に

咥えさせ発声練習をさせてみる

「!? やっ……!! こ…こんな大きいの

無理いッンぐっ! んんんん…ッ!」

お前に拒否権はないんだ!

半ば無理矢理にチ○ポをねじ込むと

唾液にまみれた口内で

ルカの柔らかい舌が激しく上下する

ヒクヒクと痙攣しているルカのオマ○コが  
まるで俺の肉棒を欲しているかのように  
ヨダレのような愛液を垂らしている  
そんなに欲しいなら……くれてやる！  
俺は止まらない肉欲にまかせ  
一気に膣内へと挿入する

ああ、ああ、ああ

ズキ  
ズキ  
ズキ

ズキ  
ズキ  
ズキ

「へっへっへっ……ッ！  
あっあああああ……ッッ！  
濡れたハスキーボイスが  
部屋中に響き渡る  
いいぞ……この声が聴きたかったんだ俺は！  
「やッ……いいやあああああ……ッ」

「マ：マスターッ！ あっひあッ：お：お願いッ  
抜いて：：：ッツ 抜いてええええええ！」

ルカの懇願には耳を傾けず

俺はグシヨグシヨのオマ○コを

何度も何度も突いてやる

「歌うからッ：：マスターの曲う！」

何でもっ歌うから：：あんッ もう許してええッ」

ハァハァ

やっ…もう  
やめ…えっ

何を言ってるんだ

今抜いたら、お前のいやらしい歌声が

聴けないじゃないか：：それに

本当は気持ちいいんだらう!?

このメス犬めッ！

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

「そんなにとっ ひあッ激しくう...しないでえ!」  
ルカと俺は快感の絶頂に達する

「あひッくうん あっダメ!...イツちゃ  
イツちゃううのおおお〜!」

外にっ...だ  
めえええ!!

俺は尿道からこみ上げる  
精液を一気に放出する

「ダメえッ! なっ 膣にはッ

膣には出さないでえええええ!」

ねっとり白濁したザーメンが  
ルカのオマ○コに容赦なく注ぎ込まれる

も  
あひッ  
あひッ

あひッ  
あひッ  
あひッ

あひッ  
あひッ  
あひッ

「ううっ…んくっ ひくッ…  
さ…最低…マスター…!!」  
ふん、なんとでも言え  
ルカ…お前はこれから  
俺の歌うオナペットなんだよ!

「お願い…もう許して…  
な…何でもするから…っ」  
そうか…じゃあ今度は  
そのデカイ尻をこっちに向ける  
「えっ!?…むっ無理! やッ  
いやあああああ…!!」

ビクッ

ビクッ

いびき

ゴクゴク

とっ





オウツツ

こんにちは、水原優です。個人的にヴォーカロイドの中でルカさんが一番いいです^^ページの都合でパイズリ描けなかったのが心残りです  
夏コミは個人サークルRip@Lipで出ますんで、よろしく  
お願いします~!

## 夏コミ

発行  
Sweet Rance

作者

水原優・よしろん

発行日

2009/6

印刷

関西美術印刷様

初めましてっ  
同人誌初参加の超新参者、よしろんです  
色々四苦八苦しましたが水原先生の手を借り  
なんとかカタチになることができましたっ^^

これから合同も含め個人でも同人活動をスタート  
させる所存です!よろしくお願ひします(\*>▽<)/

【HP 鎖キャタピラ】 <http://44ron.blog34.fc2.com/>

<http://sweetrance.main.jp/>



**R18**  
Adult  
Only

presented by

**SweetRance**